

ネギ「秋田はるっこ」

秋田県農業試験場

1 この品種を開発した目的

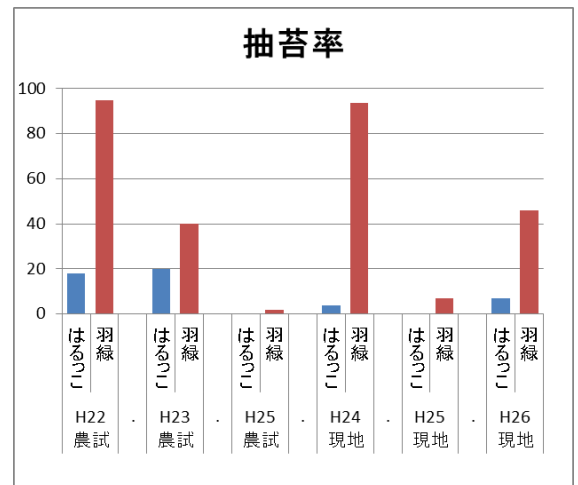
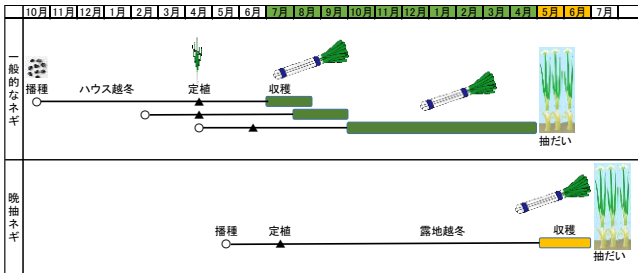
ネギは、ある程度生長した苗が一定期間低温に遭遇するとネギ坊主が出現（抽だい）し、硬くなって出荷できなくなります。このため、5～6月はほとんどのネギが出荷できない端境期となります。一般のネギより抽だいが遅い「晩抽ネギ」で5～6月に出荷する作型が一部地域で導入されていますが、分けつや硬さ等が問題となっています。そこで十分な晩抽性を保持し、柔らかい一本太系のオリジナル品種を育成しました。

2 品種の特性・用途・セールスポイント

- ① ‘羽緑’より抽だいが遅く、‘羽緑’より収穫期幅が広いことから収穫期の分散が図れる。
- ② ‘羽緑’より収量（一本重、白根の太さや長さ等）が高い。
- ③ ‘羽緑’より柔らかく、ネギが硬く評価が下がる5～6月どりのネギの品質を向上できる。
- ④ 葉色が濃く商品性が高い。
- ⑤ 越冬性については‘羽緑’と同程度。



左：秋田はるっこ、右：羽緑



3 育成経過

晩抽性の‘長悦’、秋田県伝統野菜の一つで軟らかい‘亀の助’を素材としてF₁（一代雑種）品種を育成しました。

★この品種に関する問い合わせ先★

秋田県農業試験場 電話 018-881-3312